2Ua-4　　農家世帯高齢者の生活と生活環境に関する研究　（第二報）

宮崎大教育　米村敦子

目的：本研究は、種々の偏在性を内包しながら急速に進む高齢化の中で、過疎化や農業問題や地域問題と関連して、高齢化に伴う複合的な問題を厳しく現出している農家世帯の高齢者問題に着目して、その生活と生活環境についての調査を宮崎県下で実施し、きめ細かい生活実態を把握するとともに、それを通して、住み慣れた環境の中でいきいきと生活していく、今後の高齢化対策について検討するものである。宮崎県の高齢化率は14.2%、農家世帯においては19.5%に達している（1990年国勢調査・農林業センサス）。

方法：調査対象地として３市町４地域（最も高齢化の進む県中北山村部から西臼杵郡日之影町、市部で高齢化率20%を越えたえびの市から平野部と山間部の２地域、農協主体の特老ホームの建設計画の進む半農半漁地域の南那珂郡南郷町）を選定し、65歳以上の高齢者および50～64歳の向老期の成人を対象とした質問紙を用いた自記式・留置式のアンケート調査（1991年 8月、有効回収票 751）と、高齢者の居住する伝統的な農家住宅の実測調査および住み方調査（1991年 9～11月）を実施した。

結果：本報では、アンケート調査より、居住環境を中心に、「併列型」や「分棟型」という地域の特徴を示す住宅の間取り、南部に多い隠居家の状況とその独立的な生活様式、および、地域環境の現状と問題点について、さらに、高齢者の介護と女性の問題、高齢者専用住宅や高齢者福祉対策への要望等について報告する。また、実測調査および住み方調査からは、高齢者の居住する伝統的住宅の歴史や地域性、増改築の状況や高齢者の住まい方、住宅内で営まれる伝統行事などの住生活文化の現状等について報告する。